

JAPANESE PATENT OFFICE
LAID-OPEN UTILITY MODEL PUBLICATION

Publication No.: Sho 61-109311
Date of Laying Open: 11 July 1986
U.M. Application No.: Sho 59-195695
Date of Filing: 24 December 1984

Inventor: Katsuya Fujimoto
c/o Fuji International Kabushiki Kaisha, No. 802, Ginza
Kawaki Building, 18-12, Ginza 7-chome, Chuo-ku, Tokyo,
Japan

Applicant: Fuji International Kabushiki Kaisha
No. 802, Ginza Kawaki Building, 18-12, Ginza 7-chome,
Chuo-ku, Tokyo, Japan

Attorney: Hiroshi Asamura

Title of the Device: Structure of Shoes

Abstract: The present device aims at providing a structure of shoes which causes legs of a user who wears the shoes to be naturally in a knock-kneed state or in a state analogous to knock-knees, whereby the user can not only prevent his or her two legs from being in such a downwardly convergent state where the two legs converge downwardly towards the feet, but also prevent him or her from assuming such an imbalanced posture wherein his or her weight point is biased to the heel side.

The structure of shoes according to the present device is characterized in having a sole of such configuration that an outward portion thereof extending along an outward side of user's foot is greater in thickness than an inward portion thereof extending along an inward side of the user's foot. Hence, at the point of address for instance, the legs of user wearing such shoes are inevitably caused to be in a knock-kneed state or in a state analogous to knock-knees, so that the user can naturally prevent his or her two legs from being the above-mentioned downwardly convergent state, and also can naturally prevent him or her from assuming the imbalanced posture wherein his or her weight point is biased to the heel side. This particular shoe structure is therefore suited for golf shoes and the like, and also effective in correcting bow-legs if a bow-legged or relatively bow-legged user continues wearing the shoes every day.

公開実用 昭和61-109311

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 昭61-109311

⑬ Int.Cl.⁴

A 43 B 13/14
5/00

識別記号

庁内整理番号

6617-4F
6561-4F

⑭ 公開 昭和61年(1986)7月11日

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 靴の構造

⑯ 実 願 昭59-195695

⑰ 出 願 昭59(1984)12月24日

⑱ 考 案 者 藤 本 勝 彌 東京都中央区銀座7-18-12 銀座川岐ビル802号 フ
ジ・インターナショナル株式会社内

⑲ 出 願 人 フジ・インターナシヨ 東京都中央区銀座7-18-12 銀座川岐ビル802号
ナル株式会社

⑳ 代 理 人 弁理士 浅 村 皓 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

靴の構造

2. 実用新案登録請求の範囲

足の内側に沿った部分よりも外側に沿った部分の方がより厚くなっている底を有することを特徴とする靴。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は靴底の構造に係り、より詳しくは、ゴルフシューズとして用いると特に有効であるが、脚(俗に「がに股」と呼ばれる)の矯正用としても用いることの出来る靴底の構造に係る。

(考案が解決しようとする問題点)

ゴルフにおいて、良いショットをするにはゴルフクラブを正しいフォームに従ってスイングすることが必要であり、多くのゴルファーは良いフォームを身につけるのに苦勞している。良いスイングが行われるための重要な条件として、

(イ) アドレスした時に、両足のつま先を逆

ハの字形（第3図の点線位置）に開かずに、両足を互に平行で且つ飛球線に対して直角（第3図の実線位置）にすること、

（ロ） 両脚の膝（ひざ）をO脚状に外へ開かずに、幾分X脚気味になるように心もち内側へ互に寄せること、

（ハ） 幾分前傾姿勢をとり、踵に体重をあまりかけないこと、

の3点が挙げられる。これらの3条件がなぜ必要であるかと云えば、良いスイングのためには良いテークバック（バックスイング）が必要とされ、良いテークバックのためには、クラブをテークバックした時に右側（右打者の場合）の腰が外側（右方）へ逃げないように右側の足の裏面の内側（左側）の部分（第3図でハツチングで示した部分）で体重を支えることが必要であり、また、ボールをより遠く且つ正しい方向へ飛ばすにはボールに対して大きなエネルギーを正しい方向から与える必要があり、これには、アドレスした上体、特に左肩、を十分に右側へねじつてトツプまでバ

ツクスイングし、これに続くダウンスイングにおいては足の踵に体重が乗らないようにするためである、と多くのゴルフ指導者が指摘している。この指摘に反して、足のつま先を第3図で点線で示すように逆ハの字形に開いてアドレスすると、テークバック時に右腰が外へ逃げて身体が逆C字形になり、右足の裏面の外側（右側）の部分で体重を支えることになるから、テークバックに続くダウンスイング時に右側から左側へスムーズに体重を移すことが出来なくなり、その結果、俗に云うダフリ（クラブヘッドがボールの手前の土を打つこと）やトツプ（クラブヘッドがボールの上部に当たること）になり易く、また、左足のつま先が外に開いているから、テークバック時に上体を右方向にねじるのが容易でなく、その結果、テークバックが不十分となり、良いショットが生じないことになる。

上述のように、上記の3条件（イ）、（ロ）及び（ハ）は良いゴルフスイングに必須の要件なのであるが、アドレス時にこれらの3条件を全て充

たす姿勢をゴルファーの誰もが簡単にとれるというものではない。

本願考案者はゴルフ歴が長く、頼まれて多くの初心者のコーチをした経験があるが、上記の3条件のうちでも特に条件（イ）と（ロ）を満足させる姿勢を簡単にはとれない人がかなり多いことを知った。すなわち、アドレス時に両足を互に平行に置き且つひざを幾分内側へ入れてややX脚にした姿勢をなかなか取れないゴルファーがかなり居る。また、概ねこの姿勢でアドレスは出来るがテークバックに移ると右側の脚と腰が右側に逃げてしまい、その結果、トツプの位置では逆C字形の姿勢になつてしまうゴルファーも多い（これは初心者以外のゴルファーにも多い）。原因としては幼児に開脚した姿勢で親の背に背負われたためにO脚又はO脚気味になつてしまつたとか、O脚でもO脚気味でもないが脚力が弱いためにテークバック時に右足の内側部分のみで体重を支え切れなとか、等が考えられるけれども、原因はどうであれ、上述のような欠点のあるフォームを矯正す

べくコーチがいろいろと助言し、しかも教わる側もその助言通りにしようと意識はしても身体がその通りには動作しないという問題をかかえているゴルファーが多く存在することは事実である。

（考案の目的と構成）

本考案はこの問題を解消することを目的とするものであり、この目的を達成する具体的手段として、足の内側に沿った部分よりも外側に沿った部分の方がより厚くなっている底を有する靴を提供する。

（作用）

本考案に沿った靴を履けばアドレス時の姿勢が必然的にX脚又はX脚気味になり、逆ハの字形の姿勢と踵重心の姿勢とが無意識のうちに防止され、又、O脚又はO脚気味の人が日常着用すればO脚が矯正される。

このように、本考案の靴はO脚の矯正にも用いることが出来るので、本考案はゴルフシューズに限定されるものではない。

なお、土踏まずの部分を他の部分よりも厚くし

たインナーソールを設けた靴がある種のスポーツ用（テニス、バスケット等）として市販されているが、この構造は着用者の体重を足裏面全体で受けるようにして疲労を少なくすることを目的としたもので、本考案のものとは技術思想を根本から異にする。

また、踵を高くして、着用者の背丈を高く見せるように作られた靴（ハイヒール）も知られているが、本考案のもののように、いわゆる「外股」（即ち、O脚）の姿勢になりがちな脚及び足をいわゆる「内股」（即ち、X脚）の姿勢に積極的に矯正しようとする発想のものではない。

（実施例）

次に、添付図面を参照して本考案の実施例を説明する。

第1図及び第2図は本考案をゴルフ用スパイクシューズ1に適用した実施例を示す。スパイクシューズ1は従来のもと同様な甲皮2と、この甲皮2の下縁に固着されたアウターソール3と、アウターソール3の内側に配置されたミッドソール

4 と、発泡ウレタン等から成るインナーソール 5 と、アウターソール 3 の下面に植設された複数のスパイクピン 6 とを有する。アウターソール 3 と、ミッドソール 4 とインナーソール 5 とで底 7 を構成する。

図示のスパイクシューズ 1 は右ききの人の右足用である。図示の実施例においては底 7 のうちアウターソール 3 とミッドソール 4 とは、それぞれ、厚さが左右（右足の内側から外側へかけて）均一であるが、インナーソール 5 は、右足の内側縁に当る部分 5 a の厚さが最も薄く、この厚さは右足の外側へ行くに従つて次第に厚くなり、右足の外側縁に当る部分 5 b で最大の厚さとなつている。

左足用のシューズは図示していないが、右足用のシューズ 1 と対称的になるように構成すれば良い。

以上説明したゴルフ用スパイクシューズを着用してアドレスすると、シューズの底 7 の厚さは足の内側の方が薄く外側の方が厚いので、脚のひざが足よりも内側に入り、両脚は自ずから X 脚（内

股)の姿勢になる。そして、この姿勢のアドレスからゴルフクラブをテークバックすると、アドレス時における右足のひざが右足よりも外側(右側)に逃げ難いために、トツブの位置において逆C字形(打者の後方から見て)の姿勢になることが良好に防止され、正しいフォームでトツブの姿勢が得られる。また、左足はつま先が開いていないので、上半身を右側へ十分にねじることが容易である。そして、かくして得られた正しいトツブの姿勢からダウンスイングに移ると、体重が右足(及び脚)から左足(及び脚)へスムーズに移動する。この場合に、左足のシューズの底の厚さは足の外側(左側)の方が内側(右側)よりも大であるから、ダウンスイングからフォロースルーにかけて軸脚である左脚が外側(左側)へ逃げることが防止される。

以上の実施例においては、底7のうちインナーソール5の厚みを足の内側から外側へかけて変化させてあるが、インナーソール5の代りに、アウトソール3の厚みを内側から外側へかけて変化

させても良いし、インナーソール5もアウターソール3も、そしてまた、ミッドソール4も、それぞれの厚さを内側から外側にかけて変化させても良い。要は、アウターソール3と、ミッドソール4とインナーソール5との3者によつて構成される底7の全体の厚さが内側から外側にかけて変化するように構成されていれば良い。

第4図は上述の実施例に対する変更例を示すもので、この例においてはアウターソール3、ミッドソール4及びインナーソール5は、それぞれ、足の内側から外側へかけて厚さが均一である。その代り、アウターソール3の下面には、足の外側縁に沿う部分に樹脂製の細長いパッチ8を接着剤等の手段により固着してあり、足の外側縁部のスパイクピン6はこのパッチ8に植設される。この変更例によるゴルフシューズを着用してゴルフスイングを行う際に、パッチ8は、スパイクピン6とは異なり、地面又はその同等物（練習場の打席に置かれたゴムマット等）の表面から下へ潜り込んだり突き刺さつたりしないから、パッチ8は

第 1 図の構造と同じ効果を奏する。よつて、この実施例の場合には、パッチ 8 は底 7 の 1 部であると解釈すべきである。

第 5 図は第 2 の変更例を示すもので、この場合には、第 4 図に示すようにパッチ 8 にスパイクピン 6 を取付ける代りに、アウターソール 3 に取付けられたスパイクピン 6 のうち、足の外側縁部の下に位置するスパイクピンを覆つた状態でゴム製等のアタッチメント 9 がアウターソール 3 に接着剤等の手段により固着されている。アタッチメント 9 は第 5 図ではその横断面形状のみしか示していないが、アウターソール 3 の外側縁に沿つてその長手方向に細長く延びるものであり、その長さの数箇所にスパイクピン 6 を収容する凹み 9 a が形成されていて、これらの凹み 9 a 以外の部分においてアウターソール 3 に固着されている。このアタッチメント 9 を取付けたゴルフシューズを着用してアドレスすると、アタッチメント 9 は地面またはその同等物の表面の下へ潜らないので、第 1 図及び第 4 図に示した構造の場合と同様な効果

が得られる。このように、アタッチメント9もゴルフシューズ1の底の1部分の厚さを実質上増大させるものであるので、アタッチメント9は作用的に底7の1部を成すものと解釈すべきである。

尚、第4図と第5図により、アウターソール3に、それとは別体のパッチ8及びアタッチメント9をそれぞれ取付けた例を示したが、アウターソール3とパッチ8、及びアウターソール3とアタッチメント9がそれぞれ最初から一体になるように例えばインジェクションモルディングにより一体成形してもよいことは当業者に自明である。尚、その場合には、第5図において足の外側縁に沿って設けたスパイクピン6（アタッチメント9で覆われたもの）は不要であり、また、アタッチメント9自体の形状も第5図のものに限らない。

第6図は本考案を普通の靴、すなわちスパイクの無い靴、に適用した実施例を示すもので、この例ではアウターソール3とインナーソール5とが共に、足の内側から外側へかけて次第に増加する厚さを有するように作られている。しかし、この

構造に限定されるものではなく、第1図のように
インナーソール5のみの厚さを内側から外側へ向
けて変化させてもよいし、或は、図示しないが、
アウターソール3のみの厚さを内側から外側に向
けて変化させてもよい。

第6図の実施例による靴を着用してゴルフスイ
ングの練習を行えば上述の実施例の場合と同様な
効果が得られるし、日常着用すれば着用者は歩行
中に外股（O脚）の姿勢をとり難くなるので、自
然にO脚が矯正される。

（効果）

以上の説明から明らかなように、本考案をゴル
フシューズに適用するとO脚又はO脚気味のゴル
ファーでも上記の3条件（イ）～（ハ）を満足さ
せる良いフォームでスイング出来るようになり、
また、本考案を適用した通常の靴（スパイクの付
いてない靴）はO脚の矯正に有効である。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案を実施したゴルフシューズの横
断面図で、第2図のI-I線に沿って取ったもの、

第2図は第1図の靴の側面図、

第3図はゴルフスイングのアドレス時の足の位置と飛球方向との関係を示した図、

第4図及び第5図は第1図の実施例に対する第1及び第2の変更例をそれぞれ示す図、

第6図は本考案の第2の実施例による靴の横断面図である。

1 … ゴルフシューズ

3 … アウターソール

4 … ミッドソール

5 … インナーソール

6 … スパイクピン

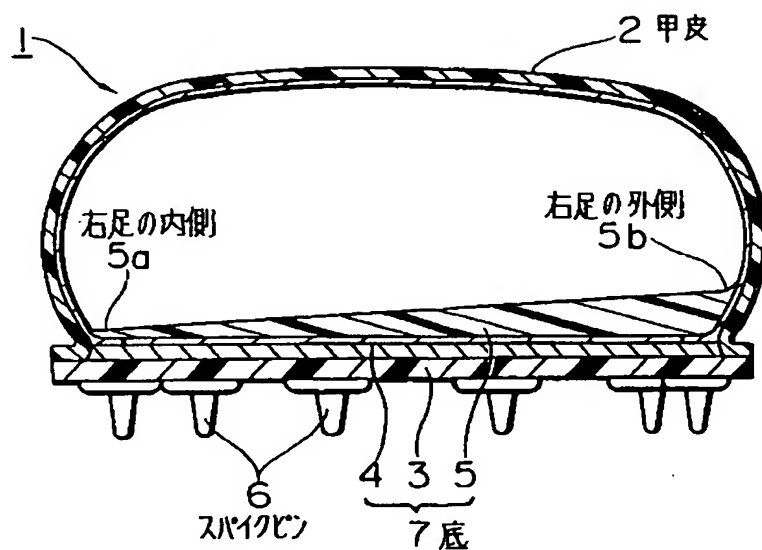
8 … バツチ

9 … アタッチメント

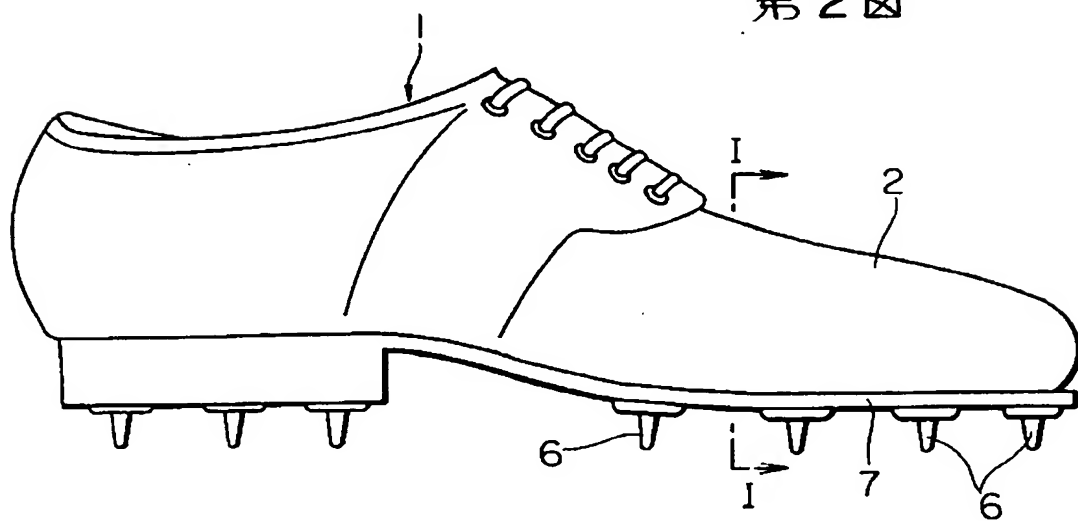
7 … 底

代理人 浅 村 皓

第 1 図



第 2 図

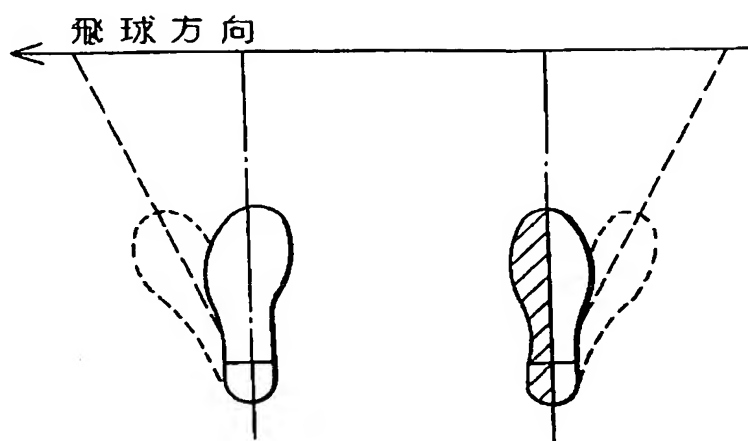


126

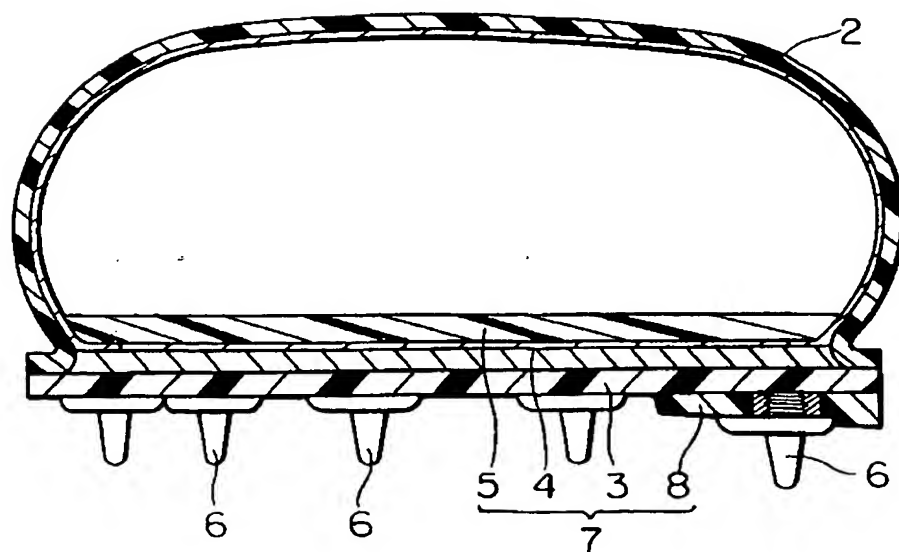
実開61-109311

代理人 浅 村 皓

第 3 図



第 4 図

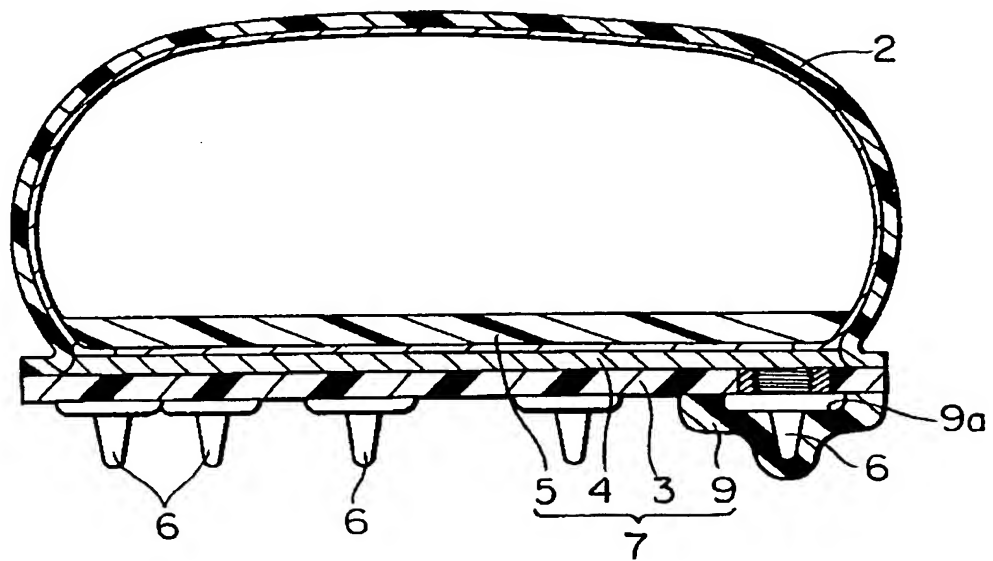


127

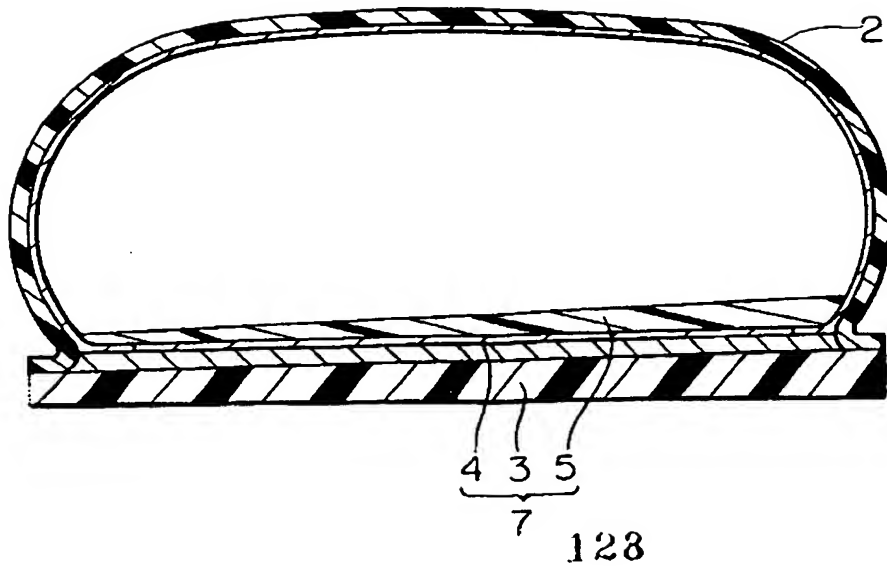
実開 61-109311

代理人 浅 村 皓

第 5 図



第 6 図



実開61-10931.1
代理人 浅 村 皓

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☒ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.